

広報広聴委員会先進地視察報告書

日 時	平成28年1月18日（月）午後1時から午後3時まで
視 察 先	長野県飯田市議会
視 察 項 目	広報広聴委員会について
視 察 者	委員 長 夏目 豊 委 員 中平 猛、古俣泰浩、林 秀人、伊藤正治、渡邊眞弓、伊藤公平、 富田一太郎、大村 聡、島崎昭三
視 察 内 容	<p>飯田市議会では、平成25年から本市議会と同様に、会議規則に位置付ける公の会議として広報広聴委員会を設置している。また、委員については、各会派から選出された10人以内の議員で構成され、正副議長についても、本市議会と同様に、オブザーバーという取り扱いがされている。この広報広聴委員会では、議会広報紙の編集及び発行のほか、議会報告会の企画運営のみならず、市民への講座等の開催なども所掌しており、議会報告会は年1回市内6ブロックで実施するなど、開かれた議会を目指した精力的な取り組みが行われている。</p> <p>議会報告会では、市民との活発な意見交換のためのテーマ設定や団体との共催などにより、参加者数の大幅な増減は見られないものの、若年層や女性が少なく参加者が固定化していること、議会報告会に係る団体の負担がふえてきているという意見もあることなどが課題とのことである。</p> <p>その他広報広聴活動として実施した小学校への出前講座では、議会の役割や選挙の大切さなど市議会等についての説明やグループごとの意見交換などについて、オブザーバーである正副議長と広報広聴委員会の委員8人が6年生130人と交流している。参加者におおむね良好な反応が得られたことから、継続していきたいという思いがある一方、多くのクラス、学校から依頼があった場合には対応が困難であることから、体制等についての検討が必要とのことである。</p>
所 感	<p>議会だよりについては、飯田市議会においても議員のかかわり方が課題となっており、文責の観点からも本市議会の担当委員による一般質問記事の調整等が、広報紙への先駆的なかかわり方であることを確認することができた。</p> <p>議会報告会については、共通の課題があることを認識するとともに、複数会場での開催、地域との共催といった特徴的な方法についても確認することができた。また、議会報告会を政策立案の柱としている点は本市議会と共通しているが、そのサイクルの中に視察を含めた所管事務調査等を組み込んでいる点も特徴的であった。本市議会においても地域、団体を含めた働きかけは必要になってくるものと考えるが、課題とされているように、地域等への過度の負担はかけるべきではなく、今回の視察も参考に、本市議会にあった参加者増を図るためのよりよい方法を検討していく必要がある。</p> <p>その他広報広聴活動として説明を受けた小学校への出前講座については、今後、依頼があった場合の体制等が課題とのことであった。本市議会においては、議会やまちづくりへの子どもの関心が高まるような活動ができるよう、引き続き議員自らの資質向上を図る必要性を感じた。</p> <p>今回は、本委員会と類似した性格を持ちながら、特徴的な広報広聴機能の充実にも取り組んでいる飯田市議会の状況を確認することができ、今後の本市議会らしい広報広聴機能を検討していく上で、非常に参考となる視察であった。</p>

